

令和6年度(2024年度) 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【勿来カトリック幼稚園】

当幼稚園における令和6年度事業内容について、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do) / 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、 道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭的教育を補うことを保育の目的とする。	本園は、神様からいただいた人としての命を尊重し、互いに助け合い、分かち合い、許し合う心を育て、人間関係の輪を深め、平和的な心を養っています。 家庭・保育者と共に心のかよった保育を目指して、感動する心、感謝する心、祈る心を大切にして充実した保育を行った。	令和7年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めていく。
年間行事について	積み重ねと継続を大切に各行事を挙げる。予定の詳細については、各幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	感染症に対する意識が少しずつ緩みがちな中ではあったが、手洗い・うがい・消毒等の徹底は行い、感染拡大防止に努めながら、行事を遂行した。行事内容については、その都度検討し子どもたちの経験値を高めながら楽しめる活動になるよう努めた。 ・全園児での園外保育 (へレナ・馬へのえさやり体験) ・人形劇鑑賞(“子育て教育講演会”を利用・いちごぐみも参加) ・運動会(暑さ対策の為錦中学校体育館で実施) ・収穫カレー会、 お楽しみ会での調理食材の買い物体験(年長) ・卒園児保育 (年2回実施、 対象学年を1～3年→1～6年とする) ・卒園児リハーサル(祖父母参加)	令和7年度も年間行事計画作成にあたり、教職員と前年の振り返りや保護者アンケートの結果をもとに協議・決定していく。 ・運動会 (暑さ対策のため9月から10月に変更、 振替休日を設けず平日に実施) ・土曜参観日 (振替休日を設けず平日に実施) ・クリスマスお遊戯会 (学年を分けず全学年、1日で実施 振替休日、を設けず平日に実施) ・教会訪問(全園児で実施) ・食育講座(全園児で実施) ・3学期保育相談 (日程を参観日後にずらし、 時短保育を通常保育とする) ・いちごぐみ・園庭開放の日数を 2回ずつ増やす

新規事業について	A 正門電磁ロック取付け工事	Aは予定通り実施 ・園児の飛び出し防止及び外部からの侵入防止等、防犯セキュリティを強化することが出来た。 保護者からも安心材料として評価される。	一時に何人も出入りする登降園の時間は、ロックを解除しているためその時間帯、職員は防犯の意識をさらに持つ必要がある。 また、電磁ロックがあることに甘んじず、スライド式ロックも確実にすることも職員、保護者に徹底していく。
新規事業について	B 砂場枠交換工事	Bは予定通り実施 ・枠の高さが砂場と一致せず枠の役割を果たしていなかったが、工事によりしっかりめりはりが出来、枠の中で楽しく砂遊びができるようになった。	今後も安心・安全に遊べるよう遊具回りの点検を行い、環境整備に努めていく。
	C サンシェード設置工事	Cは予定通り実施 ・暑さ対策のための日除けとプール等の着替えの際、目隠しとなり、防犯対策も担っている。	工事が11月だったため、実際使用するのは今年度からとなる。室内温度を少しでも下げる効果や防犯効果を期待したい。
	D 体操教室(正課)委託先の変更	Dは予定通り実施 ・子どもの体力向上・運動機能強化のため、幼児活動研究会の体操教室を年33回取り入れた。 様々なカリキュラムの中で、子供たち一人ひとりに得手・不得手はあるが、指導のもと出来るようになってと頑張る姿が見られた。	回数等については問題ない。 委託先が変わり新人の指導員だったこともあり、時間内の組み立てや体操が苦手な子への関わり方で職員から不信感が出たこともあったが、その都度、幼稚園側の思いや、子どもの状況を伝え指導を進めてもらった。 引き続き、担任と信頼関係を築きながら子どもたちの体操への意欲を高め、体力向上につながるような期待をしたい。
	E 令和7年度～制服見直し	Eは予定通り実施 ・保護者の購入額負担軽減を大きな目的として行った。 新制服は従来のものより全体で5000円程度安価となり、イメージも変わるが好評を得て令和7年度新入園児から変更となった。 (年中・年長児は従来 of 制服とする)	新制服に関して現時点での改善点はみられない。

新規事業について	F 給食 週3回から4回への見直し	<p>Fは予定通り実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担軽減のため、令和6年度4月から実施。 お弁当持参の日が“ワクワクランチデー”として年4回あり、その日を子どもたちも楽しみにしている。 給食の回数が増え、同じ物を食べることで子どもたち同士 声を掛け合ったりしながら、偏食を減らすきっかけともなっている。 	<p>発注先がお弁当屋さんであり、バランスの良い給食が提供されているが、米を始めとし食材の高騰により、令和7年度より1食¥380から¥400に値上げとなった。</p> <p>保護者には了解を得ているが、今後も同様の値上がりが続く可能性もあり得る。</p>
	G その他(新規事業外) ・園庭人工芝張り工事	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的にも青々とした環境の中で、柔らかな素材のため怪我防止にもつながり伸び伸びと遊ぶことが出来ている。 遊びの面だけでなく、天気の良い日には外でピクニックごっこをしたりすることも増え、楽しい環境作りが出来た。 外部からの印象も園庭に緑があることで明るいイメージを持ってもらえている。 	特に改善点はなし
	・火災報告受信機交換工事	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度2学期に入り、火災報知器が鳴り出す不具合が頻繁に起き、点検の結果、受信盤の劣化とみられ、交換工事を行った。 早急の対応により、安心・安全に努めることが出来た。 	今後も様々な機器や備品の点検をし、安全管理に努めていく。
教職員の資質向上について (研修等への参加含む)	園内外の研修に参加し、園児の保育の向上に力を注ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価チェックシートにより、定期的に自己を振り返ることで、福島聖心学園の職員としてだけでなく社会人としての意識を高めることが出来た。 	<p>今後も継続して行いが、書式変更の検討中。</p> <p>(本部より提示)</p> <p>自己評価をすることで、保育の質の向上につながるようになっていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・特性のある子どもへの理解のため、スクールカウンセラーの派遣事業や療育先の訪問を受け、支援の仕方など適切な助言をいただきながら、保育に活かすようにした。 	<p>特性のある子は年々増加しており、対応の仕方も個々によることが多いため、今後もスクールカウンセラーや療育先の助言をもとに、専門機関とも連携をとりながら関わられるようになっていく。</p> <p>また、専門的な研修にも参加し、特性のある子への学びを充実させていきたい。</p>

	・法人全体の学園研修に全員で参加することで、法人職員としての意識を高め、気持ちを新たに職務に当たることが出来た。	次年度も継続して研修に参加する。
	・カトリック研修に参加 県内のカトリック幼稚園の職員が一堂に会する研修に参加することで、カトリック幼稚園の職員であることを改めて意識し、カトリックの教えを子どもたちに伝える大切さを感じる事が出来た。	次年度も継続して研修に参加する。
	・交通教室、防犯教室、防災訓練を通し危機管理の知識を深めることが出来た。	令和7年度も同様の学びをし、安心・安全に努めていく。

2. 総括

1. 手洗い、消毒の励行は変わらずだが、感染症対策について張り詰めた感はなく、日常生活や行事等においても改まった対策を講じることなく安心・安全に年間を過ごすことが出来た。
2. カトリック幼稚園としての教育理念や教育目標を職員が改めて意識しながら子どもたちに関わることで最も大切な『心の育ち』を十分に成すことが出来た。保護者にも折につけ『心の育ち』の大切さを伝える機会があり、思いを共有出来ている。
3. 職員間の報・連・相を大切にし、専任・非常勤ともに声を掛け合い、伝えたり確認したりすることで、円満な職員環境を整えることが出来た。
4. 補助金により、新たにパソコン2台を導入出来、正職員に1台ずつ配備することが出来た。これにより、共有がなくなったため、今まで以上に仕事の効率化が図れるようになった。
5. 事務局により、補助金の手続きや職員の就労環境その他諸々発生する事案等について速やかに解決策を提示していただけることで円滑に園運営を行うことが出来た。
6. 年度当初より、園児数を見込むためポスター掲示や歩行者天国への参加など園のアピールに努めたが、思うような園児数獲得にはつながらなかったのが現状である。まずは幼稚園の存在を知ってもらい来園してもらうことが第一だが、そのための策を再検討する必要がある。来園のきっかけが、“ホームページを見て”という声が多く、今の親世代には紙媒体の知らせ方よりも、SNSなどでの発信力が欠かせない状況になっていることを痛感している。また、社会全体でICT化が進んでおり、子どもだけでなく大人も人との関わりが希薄になっている昨今、保護者教育にも力を入れていく必要を感じる。
7. 勿来カトリック幼稚園の強みとして、“特性のある子”の受け入れに寛大なことがあげられるが、少子化による園児数減少は他の幼稚園でも同様であり、そんな中“特性のある子”も受け入れ可能となってきている園の増加や、保護者が加配のつく保育園を希望する、といった現状があり、“特性のある子”の受け入れがなかなか強みとはならない状況になってきていることも課題である。しかし、受け入れた子どもたちに対する関わり方には自信を持てるものがあり、地道ではあるが在園児・卒園児の子どもたちはもちろん保護者の方に“勿来カトリック幼稚園で良かった”という声を外部へ発信してもらえよう職員一同努めていきたい。